

台湾濁水河流域扇頂部〈竹山〉の都市と地域に関する調査報告 その3  
日本植民地期の街屋

台湾濁水河流域	林圯埔(竹山)	日本植民地
市区改正	街屋	亭仔脚

正会員	青井 哲人*	正会員	吉田 光****
同	相川 敬介**	同	陳 穎禎*****
同	武田 峻哉***	同	白 佐立*****
同	棟方 佑香****	同	辻原万規彦*****
同	○ 三須 裕介****	同	恩田 重直*****

1. はじめに

前稿では市区改正以前の林圯埔＝竹山の景観と市区改正事業に伴う先行都市組織の変化について資料と実測の知見を報告した。本稿では都市改造・拡張の過程で竹山市街に出現した景観について、地形図や建物登記簿からその全体像を捉え、また実測調査の成果から植民地期に建設された街屋の類型化を行う。

2. 市区改正の発令後の竹山市街

竹山市区計画図の公示(1917)から4年後にあたる1921年に調製された地形図(図1)を見ると、計画図に描かれたグリッド状の道路の建設がいくらか進み、これに建物が稠密に張り付く景観が想定できる。市街はその周辺に点在していた村落部を飲み込むように西へ大きく拡大している。また建物登記簿によれば建物のほとんどが竹造または木造の平屋で、一部木造2階建であった。



図1 日治二萬五千分之一地形圖(1921年)

既存建物の建替えや拡張部の新築建物が、一部に煉瓦造や竹造が含まれるものの、主として木造であったことは聞き取りからも裏付けられる。市街景観の印象としては、1960年代までは竹造・木造が支配的であったという。住民提供の写真(図1,3)は竹山唯一の木造三階建て(竹山路111号)の陽台(テラス)で撮影されたもので、背景に映る家並みとその景観を示している。



図2 竹山市街(1957年:曾淑慧さん提供)



図3 竹山市街(1968年:曾淑慧さん提供)

3. 竹山市街を構成した建物

下の写真(図4,5)は1960年代撮影の横街の景観を現在のそれと比定したものである。この辺りは1920年代まで郵便局の土地で(図1参照)、写真に映る街屋群は郵便局の移転後、1930年代初頭に建てられ、現在まで大きな改変を受けていないことが聞き取りから確認された。この一連の町屋群(図6)は、向かって左から4、3、1間の3つの棟に分けられ、少しずつ形式が異なる。

以下では他事例を含めて実測の知見を述べる。



図4 横街(1960年代:淑慧さん提供)



図5 横街(2018年:筆者ら撮影)

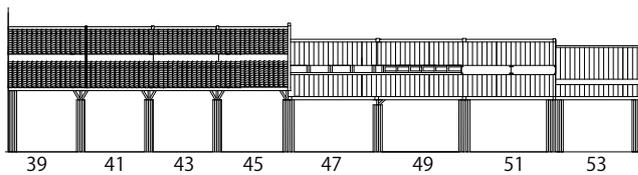


図6 横街39-53号 連続立面図

3-1-1 横街47

平屋の店舗棟正面上部に採光窓をとり、一段切り下げて亭仔脚の屋根を下ろす。亭仔脚の奥行き・軒高さともに約3mであった。

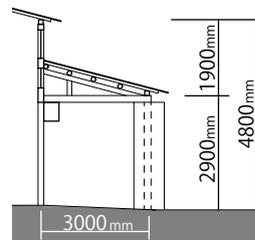


図7 横街47号 亭仔脚断面図

3-1-2 横街45

亭仔脚に要求される奥行きより下げて店舗棟壁面を置く(図8。周囲の建物より壁面が後退している)。亭仔脚の奥行きは約4mで、軒高さは約3.5mである。窓は亭仔脚の屋根の下にある(図9)。



図8 横街45,47号 亭仔脚



図9 横街45号 亭仔脚

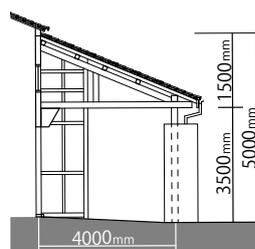


図10 横街45号 亭仔脚断面図

A Survey on Zhushan: A Town and Surrounding Region in the Intermediate Area between Plain and Mountain Part 3  
Town House(Shop Houses) in the Japanese Colonial Period

\*Akihito AOI \*\*Keisuke AIKAWA \*\*\*Shunya TAKEDA  
\*\*\*\*Yuka MUNAKATA \*\*\*\*Yusuke MISU \*\*\*Hikaru YOSHIDA  
\*\*\*\*\*CHEN Yin-Chen \*\*\*\*\*PEI Chouli  
\*\*\*\*\*Makihiko TSUJIHARA \*\*\*\*\*Shigenao ONDA

### 3-1-3 横街 53

間口約 4.5m、奥行き約 31m の土地で、隣接する横街 51 号後方に回り込んで庭をもつ。面路部は木造平屋の街屋形式で腰まで煉瓦を積み、奥に木造総二階建の街屋が続く。どちらも屋根に天窓を穿つ (図 12)。二階建の棟は一階にも床を張った部屋 (総舗) があり、二階には床の間や天袋、障子や欄間といった日本的な造作が多く見られる (図 13)。

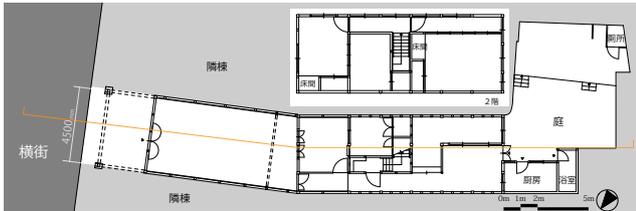


図 11 横街 53 号 平面図, 断面図

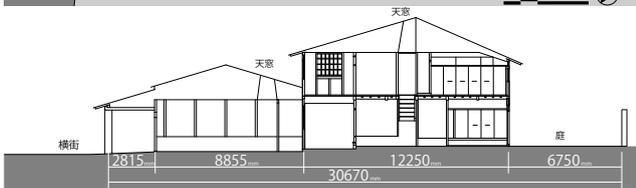


図 12 内観 (平屋)



図 13 内観 (総二階建て 二階)

### 3-2 竹山路 151

間口約 4m、奥行き約 40m の短冊状の敷地である。もとは中庭を挟んで平入建物が反復する二進構成だったが、のちに一進目の中庭を室内化し、二進目の中庭に通路を確保した上で煉瓦造で居住部を増やしたと考えられる。面路部の街屋は厨子二階で、屋根裏は生活空間や物置として利用されてきた (図 15,16)。

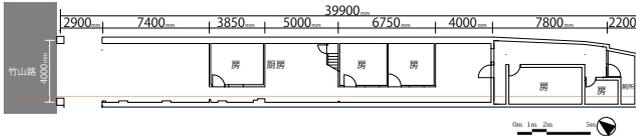


図 14 竹山路 151 号 平面図, 断面図



図 15 屋根裏の通路と棟下の小屋



図 16 屋根裏の物置

\* 明治大学理工学部建築学科 教授・博 (工)  
 \*\* 平和エアテック (投稿当時、明治大学大学院生)・修 (工学)  
 \*\*\* リノベ (投稿当時、明治大学大学院生)・修 (工学)  
 \*\*\*\* 同大学大学院理工学研究科 博士前期課程  
 \*\*\*\*\* 国立東華大学台湾文化学科プロジェクト助教・博 (工)  
 \*\*\*\*\* 東京大学教養教育高度化機構 特任助教・博 (工)  
 \*\*\*\*\* 熊本県立大学環境共生学部居住環境学科 教授・博 (工)  
 \*\*\*\*\* 法政大学エコ地域デザイン研究所 研究員・博 (工)

### 3-3 菜園路 15

竹山では珍しい煉瓦造街屋である。奥行き浅い 2 間に 1 間の不整形宅地がつき、それに対応するように間口約 8m 奥行き約 14m の木造主屋と煉瓦造の付属屋で構成されている。正確な建築年代は不明だが、パラペットを立ち上げたペディメントやトラス架構の寄棟屋根などが特徴である (図 19,20)。

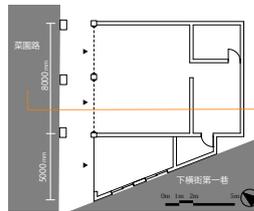


図 17 菜園路 15 号 平面図

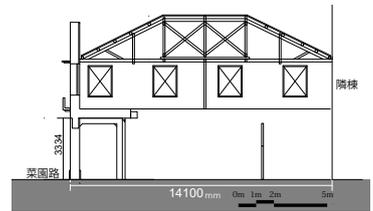


図 18 菜園路 15 号 断面図



図 19 菜園路 15 号 正面



図 20 菜園路 15 号 小屋組み

## 4. おわりに

市区計画図の公示後、竹山市街は急激に変貌・拡大したが、この過程で建築された街屋の多くは木造で、それらは〈平屋型〉、〈厨子二階型〉、〈総二階型〉の 3 つに大きく分類できる。〈厨子二階型〉に関しては亭子脚部分を大きくとった型も少なくなく、〈厨子二階-セットバック型〉とした。また〈総二階型〉はファサード面の違いによってさらに 2 つに分けられ、〈牌楼型〉が少数の煉瓦造に対応する (図 21)。状況が一変するのは 70 年代であり、経済成長に伴って補強煉瓦造や RC 造での建て替えが進み、市街は中高層化しはじめる。その後も 1995 年の大火や 1999 年の集集大地震などにより建て替えが加速して RC ラーメン造が急増した。現在は補強煉瓦造や RC 造に混じって木造が残る景観と捉えられる。

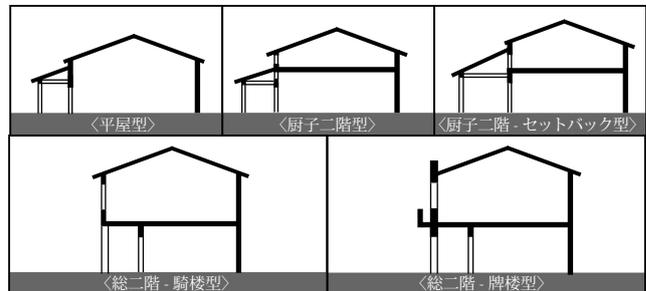


図 21 日本植民地期の竹山市街を構成した建物略図

\* 本稿は科学研究費補助金基盤研究 (B) 「台湾都市史の再構築のための基盤的研究：都市の移植・土着化・産業化の視座から」 (代表：青井哲人、平成 27 年～31 年度) の成果の一部である。

\*Professor, School of Science & Technology, Meiji University, Dr Eng. \*\*HEIWA AIRTEC, Ltd (Ex. Graduate Student of Meiji Univ). \*\*\*Renoveru Co., Ltd (Ex. Graduate Student of Meiji Univ). \*\*\*\*Master's Course, Graduate School of Science & Technology, Meiji University. \*\*\*\*\* Project Assistant Professor, Department of Taiwan and Regional Studies, National Dong Hwa University. \*\*\*\*\* Project Assistant Professor, Komaba Organization for Educational Excellence, University of Tokyo, Dr. Eng. \*\*\*\*\* Professor, Faculty of Environmental & Symbiotic Sciences, Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng. \*\*\*\*\* Researcher, Laboratory of Regional Design with Ecology, Hosei University, Dr. Eng.